

# 名医になる条件

井口昭久

知人を介して私を知ったという人から、「孫が大学の医学部へ入学したいと言っていますが、どうしたらよろしいでしょうか？」という奇妙な手紙をもらった。私は「勉強した方が良いでしょう」と返信をした。

国立大学へ入るには試験を通過するしかなく、それには勉強するしかない。簡単に受かる方法があれば私の方が教えて欲しい。

私も試験は苦手であったが、卒業後は大学教官として学生たちに試験を課す方に回った。近頃の学生たちは試験のためにだけ勉強している。

ざわついている学生たちを黙らせようと、

委員会で出席を取ることに学生は猛烈に反対した。「どうして詰まらない講義へ出席しなければならぬのか」と学生たちは言った。私はその代わりに講義の評価を学生にさせることで納得させようとした。そうすると教官が反対した。「西も東も分かっている学生に俺たちが評価されるのは納得しがたい」と教官は言った。双方の対立は解けなかったが、教授会で「学生の出席をとり、学生が教官を評価する」と決めた。

出席を取って講義を終えると一人の学生が来た。「先生、友達に頼まれていた代返を忘れてしまっていたので、彼を出席したことにしてください」「分かった、それは誰だ」と私は答えた。出席を取り始めた頃は、その程度にいい加減であった。

学生たちは、講義に出席するようにはなつたが相変わらず勉強をしない学生もいた。

勉強をしなかった学生の中に、医者になるか名医になる者がいる。名医と藪医者の分か

「この個所は、試験に出るよ」というと静かになる。

私の学生の頃は、医学部の講義で出席を取るなどという学生の尊厳を傷つけるようなことはしなかった。ところが20年ほど前から、講義で出席を取ることが義務となった。出席する学生が極端に少なくなっていたからであった。冬の1時間目の講義には医学部学生100人のうち5人しか出席していないという状態が長く続いていた。学生の出席が少なくなると教官もやる気を失くして、講義はつまらなくなる、という悪循環を繰り返していた。

私は医学部教育委員長を務めていた。教育

れ目は学生時代にあるのではなく、卒業後の鍛錬にあるようだ。

医学生は膨大な医学情報を詰め込まれる。すべての情報を取り込むのは不可能である。だから試験対策が

上手で、ポイントで覚えるのを得意とする学生の成績はいい。しかし成績は良くても全体像を把握できていない者もいる。そしてトラブルに遭遇すると逃げてしまうこともある。

医者で一流になるためには、知識を応用する能力が必要となる。そして筆舌に尽くしがたい大きなトラブルに遭遇して、それらを乗り越えた者が名医になる。

(愛知淑徳大学教授・名古屋大学名誉教授)

